

研究課題	平安時代における后妃伝承の地域的展開と歴史教育への活用 ―中宮藤原彰子を中心に―		
氏名	高松 百香	所属	人文社会科学系
		職名	特任准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 ☒ - 受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度） 本研究課題は、藤原彰子（女院号は上東門院、藤原道長の長女、一条天皇の中宮）の、宮廷を離れた地方における伝承を確認し、現在当該地域においてどのような形で定着もしくは変容しているのか、教育実践への応用は可能かを考えるというものである。 調査対象は、京の内裏・奈良市興福寺・伊賀市予野を結ぶ八重桜と彰子の伝承である。その内容は、興福寺の名古木で、彰子の女房・伊勢大輔により「いにしえの奈良の都の八重桜 今日九重に匂いぬるかな」と詠まれた八重桜を彰子が気に入り、内裏に移植しようとしたところ、興福寺僧の強い抵抗にあい、移植を諦め、自身の荘園である伊賀の予野荘を「花垣荘」と改称し、八重桜料（維持費）として興福寺に寄進した、というものである。中世以降、花垣は歌枕「花垣の里」として知名度を上げ、近世には地元伊賀出身の松尾芭蕉により、「ひと里はみな花守の子孫かや」の詠句もある。 2023年11月に伊賀市予野の調査に入った。現在は花垣神社（明治期に春日神社から改称）敷地内に「花垣の八重桜公園」が整備され、4代目とされる八重桜が地域の人々に大事に保存されていることを確認した。また伊賀市上野図書館や伊賀市役所文化財課での文献調査により、花垣地区市民センターや花垣歴史研究会が現在の伝承の継承を担っていることが判明し、訪問した。森中祐作区長兼八重桜保存会会長と対面が叶い、通常は見ることでできない枯死した3代目の一部や、郷土画家・森中喬章による花垣の八重桜の歴史絵などを実見し、現在の花垣の様子や、伝承の次世代への継承に努める姿がうかがえた。なお、この時の調査が縁で、2024年4月20日にセンターで講演会を行い、21日の観桜会では来賓として伊賀市長とともに挨拶をつとめた。それらの様子は伊賀ケーブルテレビ・三重テレビ・読売新聞等で報道された。花垣地区は150世帯ほどとのことだが、講演会には55名の聴衆が集まり、活況であった。花垣の地名に関わる「花守」姓の方や、八重桜を管理する樹木医とも交流が始まり、今後の研究の展開に手ごたえを持つことができた。 2024年3月の調査は、当初の計画では彰子領とされる里海荘の比定候補地（徳島県鳴門市里浦町）の予定だったが、花垣調査での成果を深めた方が研究費の有効利用になると判断し、奈良市興福寺の現存する八重桜関連史跡（東円堂跡と現在の八重桜）と、中世の史料で花垣荘とならび八重桜料とされる垣見荘（現在は滋賀県東近江市垣見町）、及び滋賀県愛知郡東円堂に調査地を変更した。2018年の論文（『興福寺八重桜伝承と上東門院』『藤原彰子の文化圏と文学世界』武蔵野書院）で確認済だが、実は彰子の八重桜伝承は、本来は藤原璋子（女院号は待賢門院、白河院の養女、鳥羽院の中宮）が主役であった。八重桜を見るための東円堂（焼失し現存せず）を興福寺内に建立した史実もある。それが、いくつかの事情が重なり、鎌倉時代の『沙石集』（もしくはそれ以前）段階で、璋子から彰子に主役が変更されてしまったのである。現在、奈良県庁の敷地となっている東円堂跡は、もともと石碑と八重桜があったが、バスターミナル工事でしばらく石碑が撤去、八重桜は工事の影響か枯死したが、2019年に「ひこばえ（幼木）」が再植樹されたこと。「奈良八重桜の会」が保存に協力しており、断絶していた能「八重桜」を復活させるなどの活動を知ることができた。垣見町では、垣見荘の範囲を踏査し、中世の垣見城建設のために河川の流路が人工的に改変されていることなどを実見。また、私家版の郷土史『垣見史つれづれ』を愛荘町立愛知川図書館で閲覧し、筆者である郷土史家の藤野晃氏に連絡を取り、垣見の現状の話を伺うとともに、今後の研究への協力をお願いした。愛知郡東円堂は、興福寺領であったことから東円堂建立のための費用負担荘園と想定されるが、愛知川図書館での調査により東円堂公民館編『東円堂誌』なる非売品文献を知り、現在は複数の地名由来が存在することを知った。主筆の木津龍尊氏は故人となっていたが、子息の信光寺御住職に龍尊氏の郷土史への取り組みをお教えいただいた。東円堂地域の現状も伺うことができ、理解が深まった。 本研究費によりノートPCや文献資料を購入でき、また調査では現地の方々との知己を得ることができた。少子化により予野の花垣小学校が廃校になっていたことなど、伝承の継承には不安も残ったが、研究者が調査に入ったことによる地元の歴史意識の高まりもうかがえ、今後の希望を持った。			
【研究成果発表方法】 ・口頭発表（講演）：高松百香「歴史と伝承にみる予野・花垣・八重桜」2024年4月20日、花垣地区市民センター ・著書：高松百香『女院の歴史（仮）』山川出版社（執筆中） なお2024年秋に放映予定の彰子に関連する番組監修をつとめており（NHK、兼任届提出済み）、そこで八重桜のエピソードを取り上げるべく進行中である			

発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。